

表妙義 西岳～星穴岳

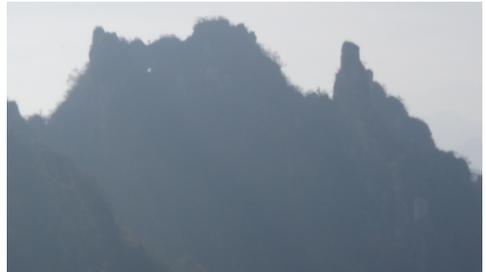
大田原

【日時】 2009年11月8日(日)

【メンバー】 L大田原、栗原

星穴岳は稜線直下に二つの横穴をもち、上信越道からもその眼光鋭い鬼のような姿が見えることで有名である。『ハイキング以上アルパイン未満』のこの山に、シーズン狭間のこの時期に行ってみることにした。

中ノ岳神社の駐車場に車を停める。表妙義の稜線が一望できるこの場所は、早朝からカメラマンがそこか



【茨尾根のピークより星穴岳】

しこで三脚を立てている。神社で安全登山を祈願し、いざ出発。日帰りとはいえ、50mロープと用心の為に

いくつも持ってきたカラビナ類が鈍った体に堪える。元気な栗原さんを追って、フーフー言いながら登山道を進んでいくと、忽然と道が消えた。どうやら途中で道を誤ったらしい。右へ左へ適当に斜面を登って岩壁基部をトラバースし、正規の道に戻った。こんなところで道に迷うなんて…。正規の道で緩い鎖場を登れば稜線である。二重に張られたトラロープを跨ぎ、縦走スタート！踏み跡は明瞭であり、トラロープのフィックスなど、結構手が入っている感じだ。特に苦労もなく西岳を越え、その先の鞍部から北斜面への下降は念のため懸垂したが、途中フィックスも垂れていた。踏み跡を追いながら進むと、先行パーティーが南側へ懸垂している。こんなところで？と思っていたら、落とし物をしたのだそう。先へ行かせてもらう。やはり踏み跡は明瞭、フィックスもあつたりして、苦労なく射抜き穴への下降点へ。ここは一旦通りすぎ、岩場の基部へ進む。右(北)側を下降し、トラバースするのがルートのような。他パーティーの記録を熟読した私は、この上を星穴岳のピークとしているパーティーも多いということで、とりあえず目の前の岩場を登ることにした。栗原さんは特にロープも出さずにすたすたと登って行ってしまった。ホールド、スタンスともに豊富だが、落ちればサヨナラ。ひとつひとつのホールドを念入りに確かめながら、私も恐々あとに続いた。小灌木の生えた細長い



【射抜き穴へ下降】

ピークに立ち、まあ、ここが星穴岳ってことでいいですよ、と話がまとまる。ギャップを挟んだ目の前にある岩峰のようなピークが本当の山頂とされているようだが、明らかにこっちの方が高いからだ。しばし休息の後、通り過ぎた下降点へと戻る。下に穴があるのがまったく見えない



【射抜き穴】

が、残置支点を使って懸垂開始。5mほど降りると空中懸垂になる。すると左手にぽっかり射抜き穴が！おー、と思わず声が出る。穴を通してあっちへ行きこっちへ行き、しげしげと見て回る。ここへ初めて降り立った人はどう感じただろう。記念撮影後、さらに南側へ45m懸垂下降する。下降点は立木にも壁にもしっかり設けられていた。降り立った地点から西側へトラバースしていくと、次はむすび穴の登場だ。こちらは星穴とも呼ばれる大穴。私はこういう自然の造形が大好きだ。本来の頂上（岩峰の方）へ行ってしまうと、直接こちらの穴へ懸垂することになるらしい。そうすると、射抜き穴へ行くのは困難である。射抜き穴とむすび穴、両方鑑賞するなら岩峰の頂上へは向かわないのがお勧めだ。帰りは射抜き穴の基部からいくつも小尾根と沢

形を越えて神社の方向へ向かう。薄い踏みあとらしきものがあつたりなかったり。適当にトラバース気味に下降していくと、特にロープを出すことなく車道へ飛び出した。観光客で賑わう駐車場はそこからすぐであった。

あまりにあっさり星穴探検が終わってしまったので、あの鬼のような姿を見に行こうと、中間道を通って茨尾根のピークへも行ってみた。そこから見る星穴岳は射抜き穴だけがはっきりと光を通し、片目のように見えた。秋の陽光のせいかな、行ってしまったあとだからか、鬼というより猫のような柔らかな印象に感じた。

【行程】

駐車場(6:45)～稜線(7:35/45)～西岳
 (7:55)～星穴岳ピーク(8:50/9:15)～射抜き穴(9:30/45)～むすび穴(9:55/10:05)～
 駐車場(11:10/30)～茨尾根のピーク
 (12:30/40)～駐車場(13:35)

【地図】南軽井沢



【むすび穴】